

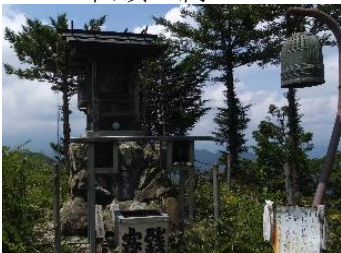
仙人通信 144 秩父御岳山(1080m)

秩父御岳山(おんたけさん)は秩父湖の北東の位置に聳える山である。

木曾の御岳山を開いた普寛上人の故郷であり、秩父御岳山も普寛上人の開山だそうで登山口である落合には、普寛上人を祀った普寛神社がある。秩父から山梨に貫ける国道140号線の落合の手前にある道の駅に車を置き、林道にある普寛トンネル→山頂→杉の峠を廻るコースとした。道の駅から普寛神社まで国道を5分程歩き、コンクリートで整備された林道からのスタートである。沢沿のお稲荷さんが祀られ地点から普寛トンネルに向けて沢を詰める様にガイドブックにあるが、この沢には飲料水用の大きなタンクが設置された為に登山口は更に林道を進んだ地点にある旨、案内板に示されている。林道を10分程進んだカーブの地点の道標に、登山口が示され杉林の沢沿いのコースだ。杉林の先にUターンしてきた上の林道のガードレールが見える。杉林の急斜面の踏み跡を確認しつつ15分程登ると林道に出た。ここにも林道に沿って山頂を示す道標だが、3m先の急な崖に半分壊れた登山道があるも(高压線の鉄塔の管理道?)他に登り口は見当たらない。地図を確認すると、更に上に林道がある事が判り、この道を登った。昨日までの雨で登山者の靴跡も無い替りに鹿の爪痕と糞だ。高压線の鉄塔からは、背丈程の萱で覆れた獣道程の道跡を確認して20分程で上段の林道へ出れた。ここからは普寛トンネルまでダートの林道を約3km進む。

トンネルの手前に山頂を示す道標だ。山頂に向け杉林の中の九十九折れの何も眺めないコースを35分程進むと、山頂に繋がる尾根だ。尾根に登ると北側から爽やかな風が吹き上げてくる。この35分間はサウナ状態(全身汗でずぶ濡れ)、であった事もあり最高の満足感だ。ここから山頂までの15分は鎖とロープである。山頂は狭く、御嶽神社の奥の院の石祠と、方位板そして半鐘程の吊り鐘でいっぱいだ。この鐘を叩き登れた事への感謝!!!。山頂は東側を除きほぼ300°の展望であり、雲もあるがコンパスと地図で山名の確認だ。北側から先に登った城峰山・御荷鉾山・赤久縄山・両神山・甲武信から雲取までの秩父連山と熊倉山だ。それぞれの思いに漬たる最高の時間である。山頂から東に5分程下がり、タツミチ方面と分かれて強石・杉の峠方面の道標に従い、杉林の尾根のコースである。ロープと鎖が張られた岩尾根で、昨日の雨で濡れ滑りやすい。山頂から30分で普寛トンネルからの林道を越し、更に杉林の中を進むと無線の反射板、次いで先程の高压線の次の鉄塔の下を通り、山頂から丁度1時間で1m程の杉の幹の根本にお地藏さんが祀られた杉の木峠である。ここで強石方面と別れて落合方面へのコースを採る。10分程下がると普寛トンネルからの林道へ、更に5分程で登山口からの林道とY字交差し、途中登る際に使用したコースと合流し、杉峠から約50分で登山口に辿り着きました。林道・山頂を除き、ほとんどが杉林中の4時間半(20000歩)の山旅でした。(H28.7.26)

山頂の祠



下山コース



鉄塔からの本山(中央)

